



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目113 〒496-0036
代表TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ <http://www.s-o-s.co.jp>

《2010夏の宴/S・O・S》

8月14、15日、“夏の宴”を楽しく賑やかに終えることが出来ました。酷暑の中、利用者さんをはじめ、ご家族やお友達、ボランティアさん…沢山の人来て頂き盛り上げて下さったことを心から感謝しております。今後ともよろしくお願ひいたします。 スタッフ一同



歌や踊り等沢山の出し物がありました。笑いや驚きや歓声で暑さも吹っ飛んだ！？



孟蘭盆経。
愛宕の家で旅立たれた利用者さんの供養も込めて、皆さんで合掌。



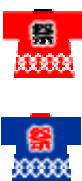
輪投げで何を狙う！？
見つめる眼差しは真剣！
童心に返ってゲームを楽しみました。



キッズによる和太鼓。その迫力と可愛さで熱い視線が集中！大きな拍手をもらったよ！



流し素麺やおはぎ、季節の野菜や果物が並び、いつもより食が進んだ方も多かったようです。



《一期一会/ナイス・デイ》

8月からナイス・デイに3名の新規利用者さんを迎えることになった。どんな方だろう？ケアマネさんからの情報をもとに色々想像が膨らんでくる。面談の日は朝からワクワクドキドキ…初対面の瞬間はどの方の姿も忘れられない。ナイス・デイの初利用日。利用者さんは緊張の連続である。スタッフも何とかリラックスして頂こうとコミュニケーションを取っていく。利用を重ね4～5回目位になるとやっと利用者さんから安堵の表情が伺える。送り出すご家族の想いもひしひしと感じる。一人ひとりの利用者さんとの出会いがあり、この先どんなことが待ち受けているのだろう？と実に楽しみである。この出会いを大切に、共に笑って共に喜んで、辛いことも分かち合い、共に過ごしていきたい。



《ハッピーバースディ♪/キッズ》

キッズでは誕生日を迎えるとみんなでお祝いします。先日、一番年上のお兄ちゃんが「今日〇〇君の誕生日で会場作ったわあ！」と小学生組4人で玩具を並べたりお祝いコメントを紙に書いたりしながら会場を作ってくれました。自然に大きい子が小さい子の世話をしたり優しくする事が出来るようになる。この夏休み中 毎日を共にする中で子ども達との関係も深まったのかな？と思うひと時でした。…と言っても、ケンカは日常茶飯事なんですけどね…(笑)



《9月の利用状況/S・O・S》

☆ナイス・デイ(定員10名)

日	月	火	水	木	金	土
7	9	9	8	10	6	9

 (数字は定期のご利用者数)
 ☆ナイス・ケア(定員なし)
 ただ今、新規サービス、追加サービスの調整が可能です。
 ☆ナイス・ホーム(定員12名)
 登録者11名
 ☆愛宕の家(定員10名)
 入居者9名(空きあり)
 ☆…募集中 / ★…満員
 お気軽にお問い合わせ下さい

老いの姿から学ぶ ～ Oさんのこと ～

Oさんは大正2年生まれ。S・O・Sで関わっている利用者さんの中で最長老の満97歳である。半年前には足腰も丈夫で「何か美味しいものはないかね？」と昼夜を問わず歩き回り、「今は夜中だよ」と注意するスタッフに「あんたも食べなさい」と言いながら好みのものを探しては口にしていた。大のドライブ好きで、車窓から看板の文字を大きな声で読み、童謡を口ずさむ。頭脳明晰・文筆達者で「私は世界で一番偉い人です」と堂々と上手な字を書き、全てに自分流を通す。こちんまりとしたその体で、いつとはなく手を合わせ、ニコッと笑って頭を下げる。その姿にスタッフもつい顔がほころび、「南無阿弥陀仏のおじいさん」と他の利用者からも呼ばれ、可愛い人となりである。そのOさんがこの暑さの中、食欲が落ち、ほとんど食べることが出来ない日が続く、みるみる弱ってしまった。家族も毎日様子を見に来ていたが、かかりつけ医に脱水症の診断を受け、約2週間点滴を続けた。その間に体力も復活して、口から食べることができるようになっていたが、未だに安心できるほど食べられず、ついに医者から「点滴での対応は限界」と胃ろうの手術を提案され、他病院への紹介状を渡された。家族は驚き、何度も相談したが、各々の意見は定まらず、結局のところ、本人の意見を聞いてみようということになった。「おじいさんが食べないから胃に穴を開けてミルクを入れようか？」と尋ねると、本人はしっかりと首を横に振った。家族は皆、自分たちの父親に対する情や思いやりの気持ちで迷っていた訳だが、これで溜飲が下りた。胃ろう手術のお陰で栄養が取れてこの先何年か元気に長生き出来るかも知れない。しかし、入院生活の間の辛さを考えると、自意識のしっかりしているOさんにとっては、そのリスクの方がマイナスに影響するのではないかとも思えた。自分流を貫いて生きてきたOさんが、最後の最後まで自分の意思で飲んだり食べたり、あるいは吐き出したりしているのだと考えれば、飲み込まないという意志も納得できる。涼しくなった今朝、「元気を付けるために生卵を飲んでみる？」と聞くと、うんと頷き、美味しそうに啜ってくれた。スタッフは手を叩いて喜んだ！(I)

《90歳の生きがいは、畑！/ナイス・ホーム》

「健康と研究のためにやっている畑を続けたい。でも体が思うように動かんようになった」そんな言葉をきっかけに登録をされた方がみえます。サービス内容は週3回の畑の手入れ。暑い中の外仕事は大変です。でも、草が伸びているとTさんは気になって仕方ないのです。「草はこうやって抜くんだよ。根っこは肥になるんだよ」「そろそろ休憩しようか」など会話をしながら汗をかいています。「草取りなんかさせて悪いなあ」と言われますが、これで草が気になりヤキモキせずに済むのなら喜んで一緒に草抜きします。1人では心配で、畑に足を運べなくても、誰かが一緒にいることでできる。生活の楽しみのための援助・イキイキと過ごしてもらうための援助をどんどん行っていきたくと思っています。



《日課/愛宕の家》

和室で生活し、布団で寝ているMさんの日課は布団の上げ下ろしです。夕方、押入れから布団を取り出し、左右上下と均等になるようにシーツを掛けます。バランスを取りながら立ったりしゃがんだり、体も頭も使わないときれいに出来ないこの作業、実は結構な運動量です。「やれるうちは自分で頑張るよ～♪」と毎日続けているMさん。このやる気がMさんの元気の秘訣！この日課がいつまでも続きますように♪



《訪問販売/ナイス・ケア》

Yさん宅に訪問すると、台所に見慣れない品物があった。「おや？」と思ったヘルパーが尋ねる。『訪問販売業者が来て「要らない」と言っても帰らず、仕方なく契約し、購入した』と言う。訪問事業所からケアマネに報告。ケアマネは地域包括支援センター等と連携し事情を確認。同時に市役所や県に相談し、Yさん宅を訪問する。迅速な連携を取り、クーリングオフ(契約解除)の手続き。業者に品物を引取ってもらお金も返金してもらうことができた。今回は悪徳訪問販売被害を防ぐことができた。実は、今ままだにも訪問販売の被害にあっている。しかしYさんから『欲しかったの！』と言われると、どうする事も出来なかった。また、『家の中を詮索しないで』というYさんの気持ちも分かる。訪問介護員という比較的近い存在にいる以上、分かっているのに厳しく問えないことが多々あるのが現状だったりする

《編集後記》

先日、重い荷物を持ち、道を歩いていたところ、若い女性が「〇〇駅まで行くの？良かったらお持ちしますよ？」と声をかけてくれました。一瞬、「知らない人！」と警戒したものの、すぐに親切だと分かりました。荷物を持ってもらうことは遠慮しましたが、駅までお喋りしながら歩き、お礼を言って別れました。暑さと慌たしさでクタクタの心身の疲れが吹き飛んでしまうような出来事でした。次は私が誰かに優しさをバトンタッチする番です。(M)